

基調講演

ヒトノミクスから考える地域の未来

NPO法人グリーンバレー理事長 大南 信也氏

NPO法人グリーンバレー理事長。徳島県神山町生まれ。米国スタンフォード大学院修了。

90年代の初頭より神山町国際交流協会を通じて「住民主導のまちづくり」を展開。

98年米国生まれの道路清掃プログラム「アドプト・ア・ハイウェイ」を全国に先駆けて実施するとともに、「神山アーティスト・イン・レジデンス」などのアート事業を相次いで始動。

11年度神山町史上初となる社会動態人口増を達成。過疎化の現状を受け入れ人口構成の健全化を目指す「創造的過疎」を持論に各種まちづくり事業を展開中(TV「ガイアの夜明け」でも特集)。

13年より「ふるさとづくり有識者会議委員(内閣官房)」に就任。



2013年 ふるさとづくり有識者会議委員(内閣官房)

2013年 過疎地域自立活性化優良事例表彰 総務大臣表彰

2013年 文化庁長官表彰(文化芸術創造都市部門)

2009年「地域環境美化功労者」環境大臣表彰

2009年 国際交流基金地球市民賞

2000年「ふるさとづくりコンクール」内閣総理大臣賞

2000年「世界に開かれたまち」自治大臣表彰



はじめに(PPT①)

- ・徳島県神山は「川の中でインターネットを使って東京の本社と会議してるまち」と、最近ではサテライトオフィスの動きで有名になってきた。
- ・今、日本の田舎で「地域における世代間の循環」と「移住者の循環」の2つの循環を取り戻す必要がある。
- ・「地域における世代間の循環」は、神山で生まれた子どもたちが、神山に帰ってこられるような仕組みづくりをすること。子どもたちをサテライトオフィスに連れていき、真剣に働いている姿を見せる。神山にも仕事があることを伝えている。
- ・「移住者の循環」は、過疎が進行すると世代間循環だけでは地域が持続しないので、都市部で活躍しきれていない若者たちに入ってきてもらう必要がある。そのために、彼らの仕事の問題を打破するため「ワークインレジデンス」(仕事を持った人に移住してもらうこと)を実施した。
- ・アリスの里帰りという小さな活動が町の人口が飛躍的に増加した。

ヒトノミクス

- ・今神山で起こっていることは、多額の予算をつぎ込んだのではなく、色々な人が入ってきたから。想い・アイデアが重なりあって色々なことが起きている。(PPT②)
- ・神山町は人口6,100人。1955年昭和の大合併により誕生したときは21,000人と、人口は減少するばかりだった。2007年に「神山町移住交流支援センター」が設置され(運営はNPO法人グリーンバレーに委託)、その後2011年度に初めて転出者が転入者を下回った。(PPT③)
- ・2010年10月以降、ITベンチャー企業10社によるサテライトオフィスの設置、小さな会社の本社移転、新会社誕生、今年前半にも3社がやってくる予定。2013年秋頃からYahoo!Japanも1泊2日の合宿を実施。同社は働き方や働く場所を根本的に見直して新たな「世の中をびっくりさせるサービス」を生み出したいという想いがある。

- ・ドローイングアンドマニュアルの菱川氏(NHK大河ドラマ「八重の桜」の冒頭桜のシーンを作成)も移住、優れたクリエイターが、新たなクリエイターを呼ぶ循環ができた。(PPT④)

活動の原点

- ・1997年に徳島県が神山を中心に「徳島国際文化村」を作るという報道に接して自分たちが描く文化村の未来像を「環境」と「芸術」の2本柱として提案した。県や町が作った施設であっても、必ず住民自身が管理運営する時代が来るだろうと思った。(PPT⑥)
- ・1980年アメリカ旅行中に道路標識で「アドプトプログラム」を知った。看板に企業名・スポンサー名が書かれ、民間で清掃活動をしていた。日本では行政が行う高速道路の清掃なども、将来的に民間で行うようになって思っていた。神山で国際文化村をつくるにあたり、初めて実施することで、日本のモデルを作ろうと考えた。企業名を看板に入れるのは道路交通法違反になると進まなかったが、1998年6月に半ば勝手に看板を設置し、住民が掃除を始めた。いまや県にも認められ、全国に広がっている。

「神山アーティストインレジデンス」

- (PPT⑦)
- ・1999年から開始した。日本人2名、外国人1名を神山に招待し、2ヶ月間で作品制作を行ってもらい、住民は制作を支援する。まちづくり型アートイベントのほとんどが見学の観光客を呼び込もうとしているが、そのためには有名なアーティストを呼ぶ必要がある。しかし神山には「資金が潤沢にない」「アートの専門家がない」。(PPT⑧)
- ・アートを評価するシステムを持っていないと、アートを高めることができないので、制作に訪れる芸術家をターゲットにした。他の場所ではできない体験を神山でももらい、満足度を極度に上げて「場」の価値を高めることに注力をした。ねらいは、欧米のアーティストが「日本に制作にいくならば神山にしよう」と思うところを作ること。

ウェブサイト「イン神山」

- ・ウェブサイトを開設して7～8年、次第にビジネスに発展させていきたいと模索し総務省モデル事業として2007～2008年に、情報発信ツールとしてウェブサイト「イン神山」を開設し、アート関係の記事を作りこんだ。

2008年6月4日にサイトを公開。神山古民家情報「神山で暮らす」が、他コンテンツの5～10倍読まれた。(PPT⑨)

アートプログラム実施後、制作滞在したアーティストたちが毎年ほぼ1組ずつ移住し始め、2010～2012年度に37世帯71名(こども17名)が移住。2013年度は25世帯40名(こども10名)が移住し、過去最高となった。(PPT⑩)

移住者は若い人、起業者を優先する。アーティスト達の引越しの手伝いや大家さんとの交渉をNPO法人グリーンバレーで行っていくうちに、移住支援のノウハウを蓄積した。

「ワークインレジデンス」(PPT⑤)

- ・2007年、徳島県内8箇所にてきた移住交流支援センターのひとつとして、NPOグリーンバレーが運営委託を受けた。仕事を持った人に移住してきてもらい、雇用問題を解決させたかった。
- ・運営にあたり、全国の移住希望者から移住先市町村がもらう情報をインターネットで調べると、家族構成と希望物件が中心だった。
- ・神山では移住者の人間の情報—夢、志、どういう仕事をしてきたか、10年後神山でどういう職種から何割の収入を得ているかなど、生活のビジョンを聞く。(PPT⑪)

人間の情報を集めることで、まちの将来に必要なお店や仕事をピンポイントで逆指名する。「ワークインレジデンス」が機能しはじめる。例えば、神山に石窯でおいしいパンを焼くお店がないので空家を使ってパン屋をやる人だけを募集してみるなど。こうすることによって結果的にまちがデザインできるようになった。

- ・1955年上角商店街には38の店舗があったが、2008年には6店舗のみ。(PPT⑫) 商店街を「ワークインレジデンス」を利用して空家に人を入れていくと、次第に住民自達(じみみだ)が自ら「こういうお店をつくりたい」とほとんどコストをかけずに理想の商店街をつくりはじめた。(PPT⑬)
- ・2010年にクリエイターがオフィス兼住居をひらく「オフィスイン神山」をスタートさせた。施設は古い空家を東京学芸大学の学生(延べ約250名)と大工で改修した。
- ・そこに海外や都市部にたくさんの友達をもつクリエイターのトム・ヴィンセント氏の「ブルー部屋」が完成した。トム氏を使用するのは1年で1～2週間、空いた日は自分の友達に貸出したところ、クリエイターが定期的に変わることで、人が人を呼ぶ循環が行われる場所となった。

サテライトオフィス

- ・トム氏の「ブルー部屋」の改修を手伝った2人の建築家が、友達のSansan 寺田親弘氏を紹介したところ、神山移住を即決した。自然が多く、水も空気もおいしい、かつ各家庭に光ファイバーがありネットの速度がとても早い神山町にシリコンバレーを重ねあわせた。こうして初めて神山にサテライトオフィスが誕生したのもとも意図したのではなく、クリエイターや建築家の想いを応援した結果だ。川の中に足をつけてMacを持って仕事をする若者の姿が話題になり、一躍神山は有名になった。
- ・2007年6月に名刺管理会社Sansanを設立。ミッションは「働き方を革新する」

□波及効果

- ・クリエイターだけでなく、営業職の社員もサテライトオフィスでオンライン営業を行っている。最初は、社員が数ヶ月毎に変わる循環型だったが、この中から移住者がうまれている。
- ・サテライトオフィスでは、町内の若い世代の雇用もうまれ、都市部の人たちが憧れる場所となった。

- ・食べるところが少なかった商店街にはワークインレジデンスによりビストロがオープンし、空家だらけだった商店街も人の流れを取り戻すことができた。(PPT⑭)

人材育成事業「神山塾」

- ・民間が行う6ヶ月間の人材育成プログラム。利用者は首都圏の30代女性が多くこれまでに66人が卒業、うち4割は神山に残りクリエイターの仕事に就業。サテライトオフィスで雇用が生まれたりカップルが誕生している。(PPT⑮)

創造的過疎による地域活性

- ・過疎の問題の未来は見えにくい。日本全体の人口が減少する中、過疎化を止めることは難しい。(PPT⑯)しかし、現状を受け入れた上で、人口構成を変える、色々な職種は働ける環境を作ること、地域が持続可能なかたちに変えていくことが必要。現状を知るには人口過疎の数値を明確にして目標を明らかにする((PPT⑰)と、必然的に解決課題が見つかる。(PPT⑱)

まとめ

- ・1999年にアートの素地がない場所に現代アートがふってきた。
- ・最初は分からないことでも続けることで価値をもち、地域の魅力向上につながり、人が集まるようになり、人が人を呼ぶ現象がうまれる。さらに長く神山町に居る方と、新しく入ってくる方とで知恵と経験の融合が発生し、ますます魅力的なまちになる。
- ・大事なことは「そこに何があるかではなく、そこにどんな人が集まるか」ということ。集まった人によって、何かがうまれてくる
- ・やってみなければわからない。まずは一歩踏み出して、考えるより行動することで、色々なことがみえてくる
- ・世界中の色々な場所から神山に人が集まることで、価値創造の場がうまれる。
- ・こういうところで何かを根本的に変えるような出来事が起こる。そうするためには人を集めることがとても大事。やっぱりヒトノミクスにつながる。
- ・好きな場所を、手を加え、行動を起こし素敵な場所に変えていきましょう！
- ・好きな関西を素敵な関西に！(PPT⑳)



①

ヒトノミクスから考える地域の未来

特定非営利活動法人グリーンバレー

理事長 大南 信也

Ominami.shinya@gmail.com

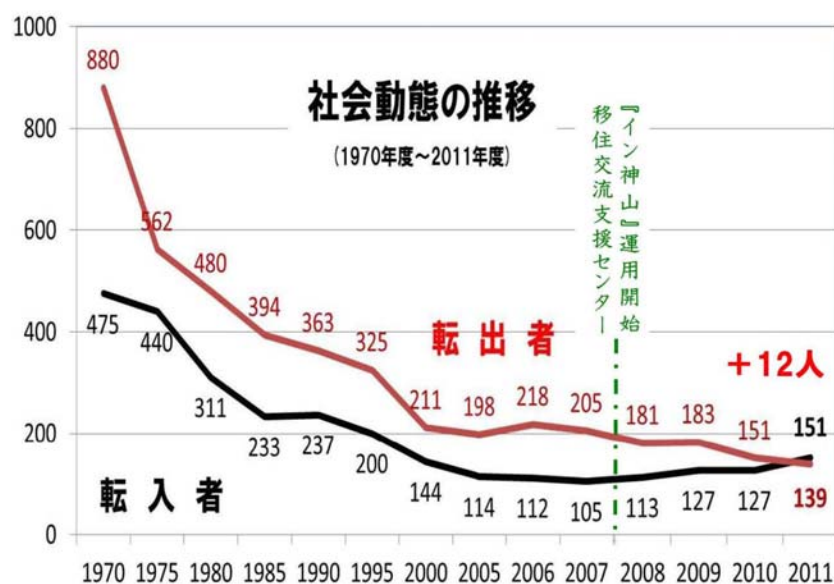
【講演の要旨】

- ① 地域における世代循環の再構築(サテライトオフィス)
- ② 仕事を持った移住者の確保(ワークインレジデンス)
- ③ 創造的過疎による持続可能な未来の開拓

②

過疎の町で起こった“二つの異変”

① 2011年度社会動態人口 ⇒ 町史上初の増加！



③

過疎の町で起こった“二つの異変”

② 2010年10月以降 ITベンチャー企業など10社がサテライトオフィス設置・本社移転！

- ① Sansan
(東京都) ・名刺管理サービス
- ② ダンクソフト
(東京都) ・サイト制作
- ③ ブリッジデザイン
(千葉県) ・サイト制作
- ④ テレコメディア
(東京都) ・高齢者見守りサービス
- ⑤ ソノリテ
(東京都) ・NPOの業務代行
- ⑥ 井上広告事務所
(神奈川県) ・広告デザイン
- ⑦ キネスコープ
(大阪府) ・サイト制作
- ⑧ プラッティーズ
(東京都) ・テレビ番組の情報配信
- ⑨ ドローイングアンドマニュアル
(東京都) ・映像制作
- ⑩ えんがわ
(神山町) ・次世代高画質放送



進出予定 ・LW社 (東京都) ・デザイン
 ・M社 (東京都) ・ウェブ制作
 ・TD社 (東京都) ・3Dカーモデリング

④

青い目の人形「アリス」の里帰り

【青い目の人形】 カリフォルニア州での日本人移民排斥運動に心を痛めたギュリック博士が「子供のころから仲良くなることが大事」と呼びかけ、1927年、12,739体の人形を日本の小学校などに贈った。到着当時大歓迎された人形も、太平洋戦争勃発により、敵国人形として、ほとんどが処分された。現存数は全国で約300体。



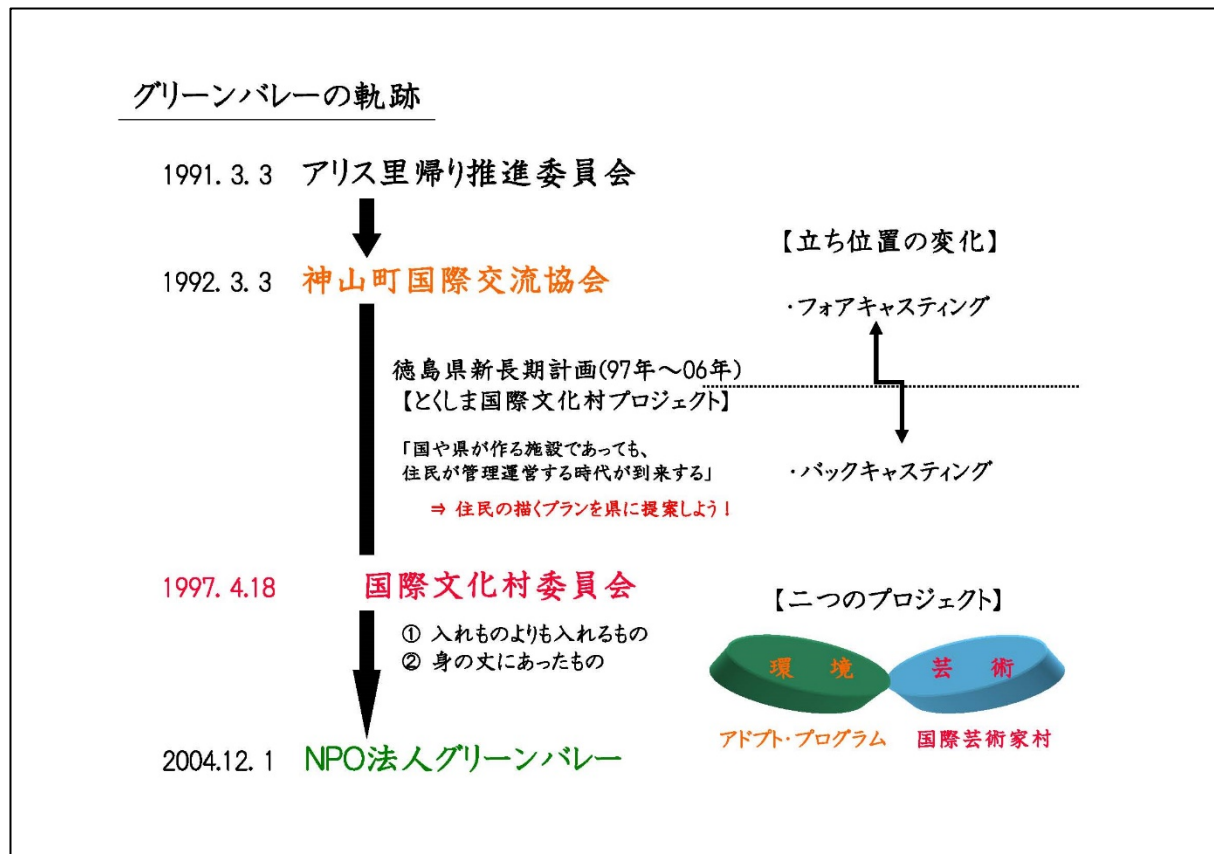
神領小学校蔵(1927年受領)



送り主探し(1990年5月) ⇒ 里帰り(1991年8月)

活動の原点 ⇒ 国際交流(世界に目を向けた地域づくり)

⑤



⑥

アドプト・ア・ハイウェイ

【Adopt Program】 住民団体や企業が里親となり、道路や河川など公共施設の一区間を養子として引き取って、その区間を行政に代わって世話をする仕組み。1985年、米国テキサス州道路局が地域住民に高速道路上の散乱ゴミの清掃を依頼したのが起源。



「道路法との関係もあり、企業名入り標識の設置は難しい」(徳島県)
⇒ 1998年6月、道路区域に看板を立て強行突破。**全国初実施！**

⑦

神山アーティスト・イン・レジデンス(KAIR)

【Artist in Residence】国内外からアーティストを一定期間招聘して、活動を支援する事業。自治体や公立美術館が取り組むケースが多い中、KAIRは住民主導による手厚く、きめ細やかなサポートが特徴。大規模な施設を持たず、学校の空き教室や遊休施設をアトリエとして活用するなど工夫を凝らしている。



1999年開始。芸術家(日本人1名・外国人2名)招聘、制作支援。

⑧

「アートによるまちづくり」における“二つの手法”

1. 見学に訪れる観光客

☛ 「評価の定まった芸術家の作品」を集める

2. 制作滞在する芸術家

☛ 「場の価値」を高める ⇒ 制作滞在をビジネスに！

⇒ ウェブサイトづくり

ウェブサイト「イン神山」制作

総務省地域ICT活用モデル構築事業

プランニング・ディレクション:

西村佳哲氏 (リビングワールド)

⇒ ワークインレジデンス

Co-プランニング:

トム・ヴィンセント氏 (トノループ社)

⇒ ブルーペアオフィス神山



☛ 「神山で暮らす」による移住需要の顕在化

⑨

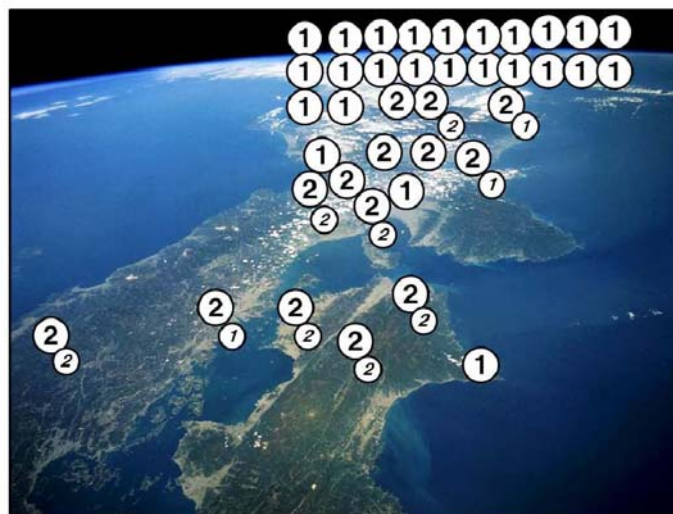
神山町における移住の歩み

1980	陶芸家一家（石川県） & 画家夫妻
1991. 8	青い目の人形アリスの里帰り
1992. 3. 3	神山町国際交流協会
1999.10	神山アーティスト・イン・レジデンス（K A I R）
2002. 2	K A I R 2001作家①（東京都）
2003. 7	K A I R 2001作家②（神奈川県）
2004. 5	K A I R 2001作家②の知人（兵庫県）
2004.12. 1	N P O 法人グリーンバレー
2005. 3	画家（京都府）
2006. 4	K A I R 2005作家（神奈川県）
2007.10. 1	神山町移住交流支援センター
2008. 6. 4	ウェブサイト「イン神山」

⑩

神山町移住交流支援センター運営事業

2010・2011・2012年度： 37世帯 71名（子ども17名）



目 的：過疎化・少子高齢化・産業の衰退等の地域課題解決
方 針：子どもを持つ若者夫婦・起業家・若者への紹介を優先

⑪

ワーク・イン・レジデンス

将来、町にとって必要な働き手や起業家を逆指名

(アーティスト・イン・レジデンスの読み替えによる発想)



⑫

商店街再生プロジェクト(空家町屋)

東京藝術大学建築科研究室連携事業



ワークインレジデンスを商店街に適用

⇒ 移住・起業・商店街再生を同時に実現！

空家町屋



改修前 (2010.08.03)



改修後 (2010.10.01)

ブルーベアオフィス神山

⑬

サテライトオフィスはどのようにして生まれたのか？



⑭

人材育成『神山塾』

厚生労働省所管求職者支援制度を利用した半年間の民間職業訓練

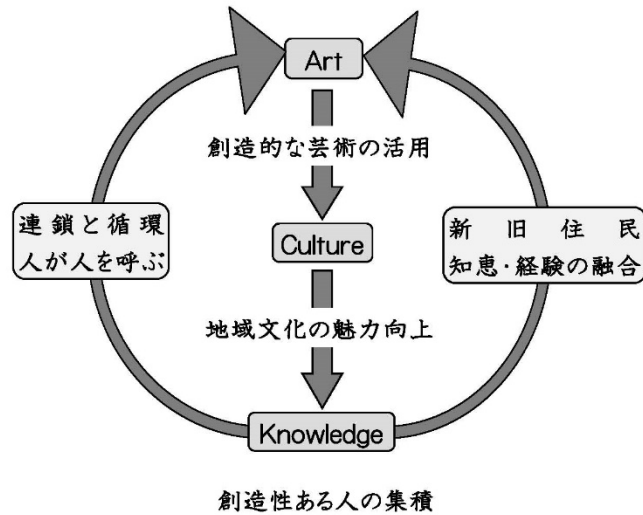


① 移住予備軍 ② SOへの就職 ③ カップル誕生

⑮

芸術・文化による地域再生

[現在を起点したアプローチ(フォアキャスティング)]



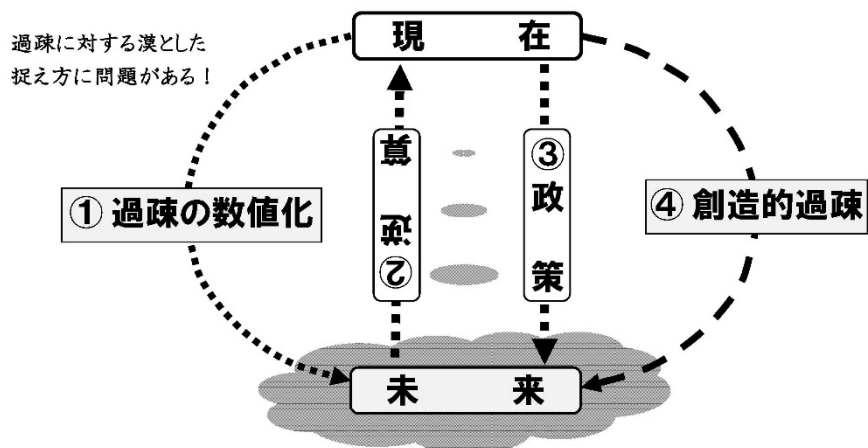
(注) 大阪市立大学大学院佐々木雅幸教授作成の図に大南加筆

そこに何があるかではなく、どんな人があつまるか！

⑯

創造的過疎による地域再生

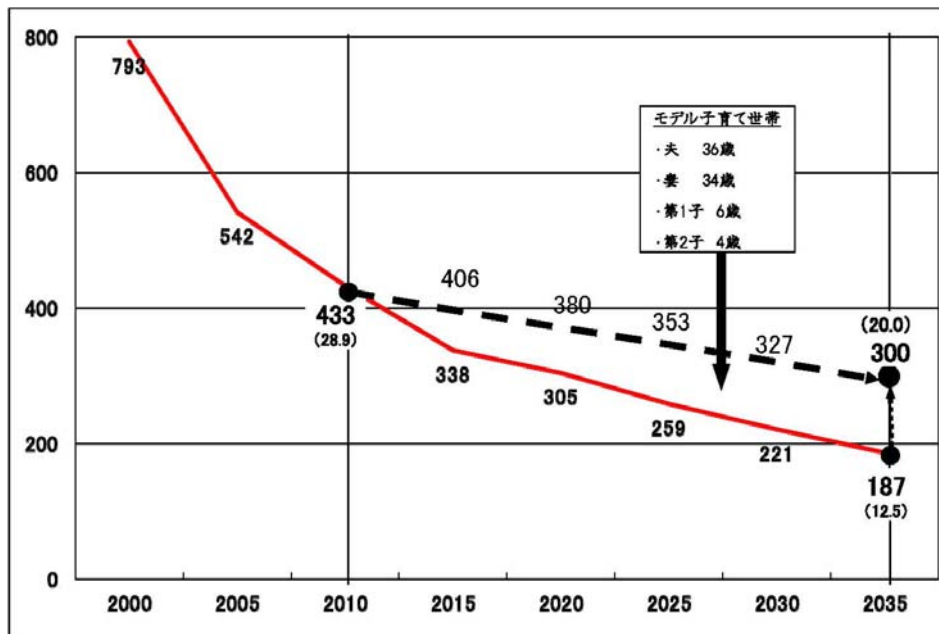
[未来を起点にしたアプローチ(バックキャスティング)]



人口減少を与件として受け入れ、外部からクリエイティブな人材を誘致することで人口構成を変化させ、地域を持続可能に変えていく

⑪

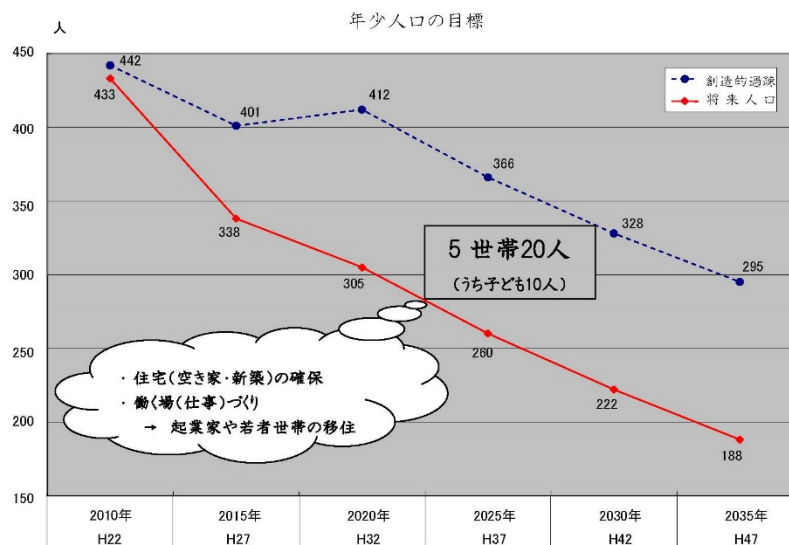
神山町・年少人口(0-14歳)の推計値



※厚生労働省国立社会保障・人口問題研究所発表の「日本の市区町村別の将来推計人口」

⑫

創造的過疎による地域再生



※ 徳島大学大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部・石田和之准教授による試算

⑪

「せかいのかみやま」の風景

クリエイティブな人が集まる、良質な価値創造の場



イベントのように、モノを中心とした仕組みは飽きが出るが、人は適度に循環させておけば、継続的に新しい何かを生み出せる！

『ヒトノミクス』による地域再生

⑫

グリーンバレーのまちづくりを詳細に記した単行本が発売されます！

神山プロジェクト -- 未来の働き方を実験する

篠原匡（日経ビジネスクロスメディア編集長）

出版社名： 日経BP社

発売予定日： 2014年3月6日

内容：サテライトオフィスなどの取り組みで注目を集める徳島県神山町とグリーンバレーの物語。IT企業や若者が集まる神山を通して、クリエイティブを生む場作りや新しい働き方などを描く。